美和町の魅力を発信！　～美和町観光動画制作プロジェクト～

山口県立岩国高等学校坂上分校

１.私たちの学校とその地域

岩国高校坂上分校（岩国市美和町渋前1275）
- 全校生徒３２人　（３年生１５人　２年生１０人　１年生７人）

岩国市美和町
- 人口減少が課題
- ＯＢ，ＯＧが多く、学校には協力的

２.動画制作プロジェクト

≪概要≫
昨年度先輩が作成した「美和町観光ツアープラン」から町の魅力をいくつか抽出し、動画にまとめる。

～ダムの周辺について～

≪目的≫
地域の魅力を知り、地域と連携した取り組みを通して地域に貢献する。

３.活動内容

≪全体の活動≫
動画づくりの基礎を学ぶ。
（講師：地元デザイン会社）

≪各班の活動≫
- 弥栄ダム班：現地へ見学に行き、取材
- 岸根栗班：里山カフェHAKUに取材
- 神楽班：坂上分校神楽クラブの練習・本番に密着

４.今後の活動

- 大学教員にアドバイスをいただく。
- 令和８年度動画制作に関する特別授業を実施する。
- 今回作成した動画を改善し、インターネットで情報発信をする。

定時制課程（夜間部）の高校生が地域のためにできることは？

山口県立岩国商業高等学校東分校

私たちが「定時制課程（夜間部）に通っている」ということを生かして、地域のために何ができるのか？

【現状分析】

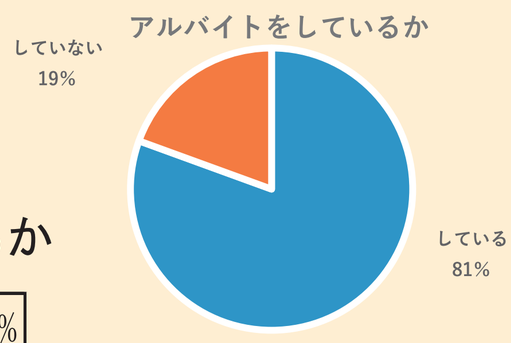
夜間部生徒36名にアンケートを実施

1　なぜ東分校を選んだのか

仕事をしながら学校に通える	10	28%
自分のペースで学べる	6	17%
少人数だから	4	11%
朝が苦手だから	3	8%
その他	13	36%

2　アルバイトをしているか

している	29	81%
していない	7	19%

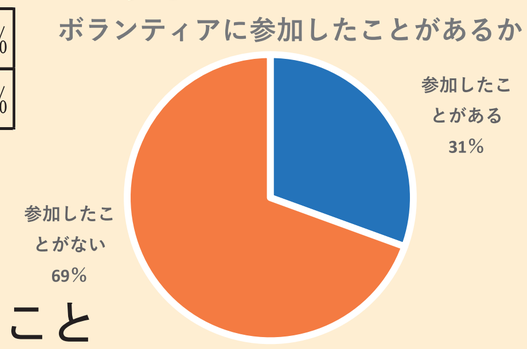


3　週にどのくらい働いているか

週５日以上	7	24%
週３日以上	17	59%
週１～２日	5	17%

4　ボランティアに参加したことがあるか

参加したことがある	11	31%
参加したことがない	25	69%



★アンケート結果から分かったこと

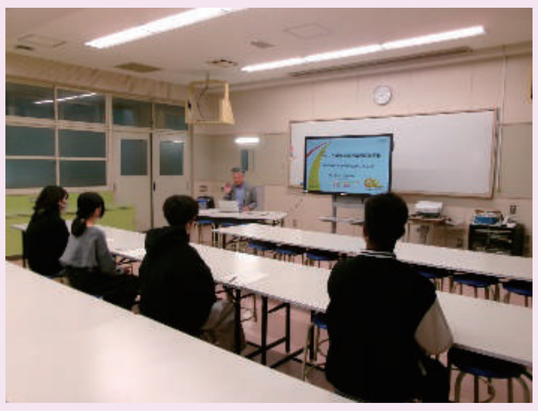
・夜間部の生徒で働いている人は約80%
・そのうち毎日働いている人は約25%
・ボランティア活動に参加したことある人は約30%

定時制課程（夜間部）の生徒の強みは、夕方まで自由に活動ができることではないか？
その時間を使って、どのように地域貢献ができるのか、
①就労（働くこと）　②奉仕活動（ボランティア）の
２つから検討してみる！

【活動】地域の方に来ていただいて、実際に地域に出て、協議・協働してみた

①　就労（働くこと）

●本校の生徒が多くアルバイトをしているマクドナルドのマクドナルドフランチャイジー(株)ピアレスの松尾茂文様から「就労を通じてどのような地域貢献ができるのか」について伺った。



●地域貢献・働くこと
・企業（会社）は地域の方のおかげで成り立っている。
・地域貢献とは、
地域の方が笑顔になること。
・働くことは、自分の価値を上げることにもなる。
・プロフェッショナル＝公共の中で自分の役割を果たすことができる人＝地域の方を笑顔にできる人

●働くことを通しての成長
・学校、アルバイト先という複数のコミュニティに所属しており、年齢・国籍など多様性のある職場で、自分の価値観だけではうまくやっていけないことを経験することができる。礼儀やマナー、考え方を「多様な人との関わり」に活かすことができる。

●お話を伺って
・アルバイトをすることが自分のためだけでなく、地域貢献にもなっていることを感じられた。
・地域の方を「笑顔にする」というキーワードを意識して、これからも頑張りたい。

②　奉仕活動（ボランティア）

【デイサービス（医療法人新生会）】

●活動内容
・レクリエーションの手伝い
（棒体操、しりとりゲーム、利用者の方とのお話等）
・職員へのインタビュー

●活動してみて
・利用者の方のペースを考えた声掛けをすることが大切だと感じた。

・一緒に活動する中で利用者の方の健康づくりや人とのつながりを増やすことに繋がると感じた。
・会話をする中で利用者の方に笑顔になっていただけた。

【子ども食堂（ペイカレー）】

●活動内容
・子ども食堂でのカレー調理補助と接客
・職員の方へのインタビュー

●活動してみて
・利益よりも、子どもの笑顔のために食堂の運営をされていることが印象に残った。

・カレーを提供するだけでなく、
子どもは食事マナーや礼儀などを学ぶ場にもなっていた。
・同じ学校で利用している人もいて、
この活動が広がっていくと、地域の和が広がっていくと感じた。

【探究のまとめと今後】
★定時制課程（夜間部）の日中に時間があるという強みを活かし、地域のために活動することができた。
★平日の日中にできる地域での活動を多くの高校生が知っていく必要がある。
★今後、アルバイトや奉仕活動が地域のため、自分たちのためにもなることを発信する。
・体験を言葉で伝える⇒参加のハードルを下げて参加者を増やす。・活動の見える化⇒ポスター、SNS等の利用
・地域のためにできることを考えて、活動を企画し、学校全体で取り組んでみる。

地元企業と連携したカーボンニュートラル構想の探究

山口県立下松工業高等学校

1　背景と目的

工業は CO_2 排出の主要な要因であり、工業系企業の多くが脱炭素に向けた取組を進めている。下松工業高校は瀬戸内工業地帯に位置し、卒業生の多くが地元工業系企業に就職している。そのため、企業と連携した環境教育はキャリア教育に効果的であると考えられる。

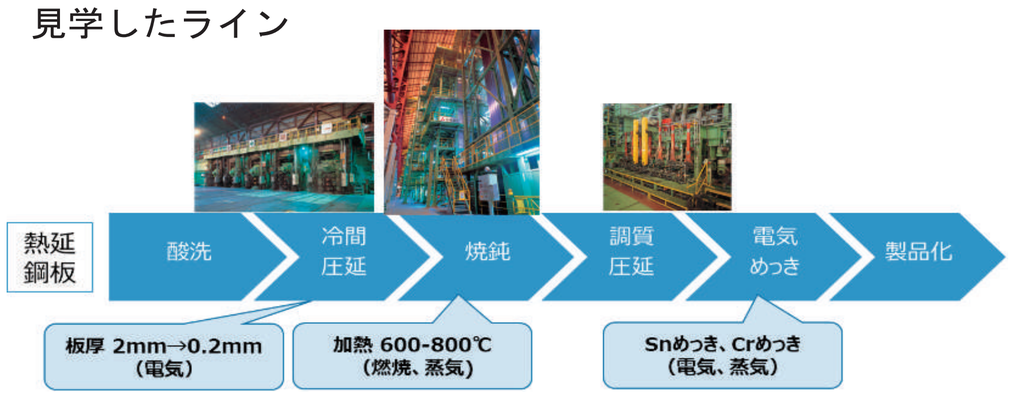
本校の取組：東洋鋼鈑株式会社の脱炭素への取組を視察し、得られた知見を基に課題を見出して班別研究を行い、カーボンニュートラル実現に向けた研究開発テーマのアイデアを提案する。

2　企業の取組の視察（１学期）

（１）カーボンニュートラル研修会

（２）工場見学

見学したライン



電気と燃料のどちらの CO_2 排出を削減するかによって効果的な対策は異なる。

（３）環境配慮型製品とその製造技術

ラミネート鋼鈑の紹介

（４）脱炭素に向けたボイラー設備対応

ボイラーの燃料転換と CO_2 回収装置の設置

（５）CO_2 の活用方法の検討

顕微鏡観察実習

3　班別研究（２学期）

１班　CO_2 回収技術の現状と課題

CO_2 回収装置の開発担当者に WEB インタビューを実施。
原理・開発方針・課題を質問。

回収した CO_2 の地産地消となる活用方法が課題。

WEB インタビューの様子

２班　CO_2 回収およびバイオ燃料に利用可能な微細藻類の探索

調査対象：ボツリオコッカス

CO_2 を吸収して光合成を行い石油相当の炭化水素を産生する微細藻類。自然界では淡水に極めて低密度で存在するといわれている。地域資源としての可能性を評価するために山口県における生息状況の調査を実施。

採取したボツリオコッカス

- 山口県東部 22 か所の湖沼のうち９か所で検出された。
- 湖水の 6000 倍濃縮で検出可能であることが分かった。
- 富栄養な環境を好む傾向がみられた。→下水・排水が培養に利用可能？
- 採取されたボツリオコッカスには採取地によって、オイルをよく分泌するものと、あまり分泌しないものがみられた。
- 現在は季節的消長を調査中で、水質調査とあわせてボツリオコッカスの生息に適した環境を解析し、培養条件への応用を検討中である。

採水調査の様子

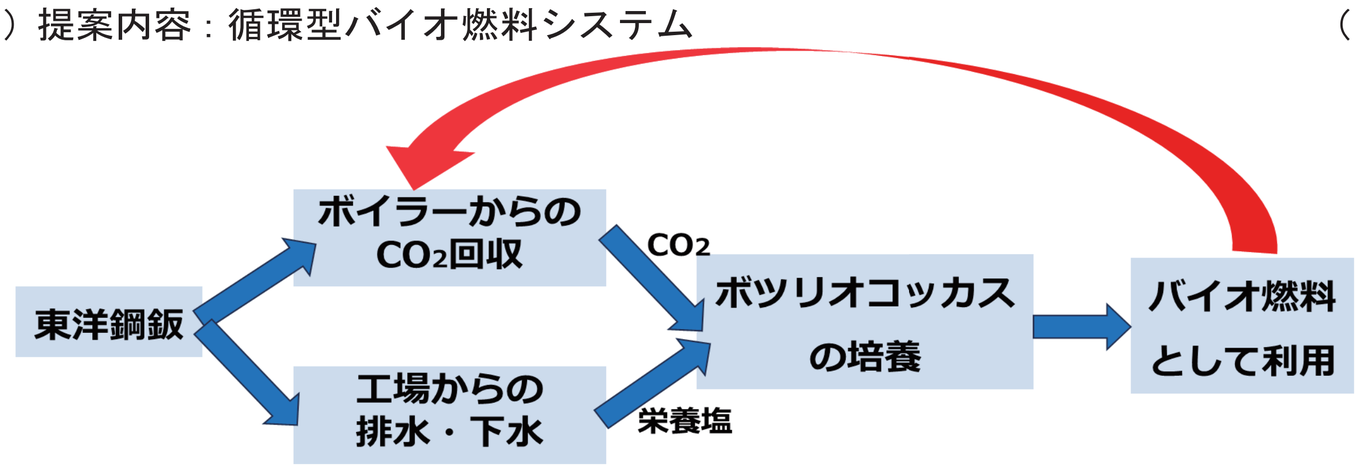
３班　工場排水処理過程からの未利用エネルギー回収の可能性

２班の結果を踏まえ、工場排水を用いた微細藻類培養の可能性を検討。東洋鋼鈑から提供された工場の排水処理過程の資料分析と担当者へのヒアリング、論文等の文献調査を実施。

- 工場排水の濃度は一定でなく利用が難しい。
- 工場で使用する処理液は pH や濃度調整をすることで、栄養源として利用できる可能性がある。
- 下水や生活排水を用いた実験では培養成功の事例あり。

4　カーボンニュートラル実現に向けた研究開発テーマの提案

（１）提案内容：循環型バイオ燃料システム



（２）TK WORKS フェスティバルでのポスター発表による提案

地域企業との協働商品開発における過程と地域活性化を狙った活動

山口県立徳山高等学校

先行研究（周南スタディⅠ）

私たちはこれまで、
周南スタディⅠという課題研究を通して

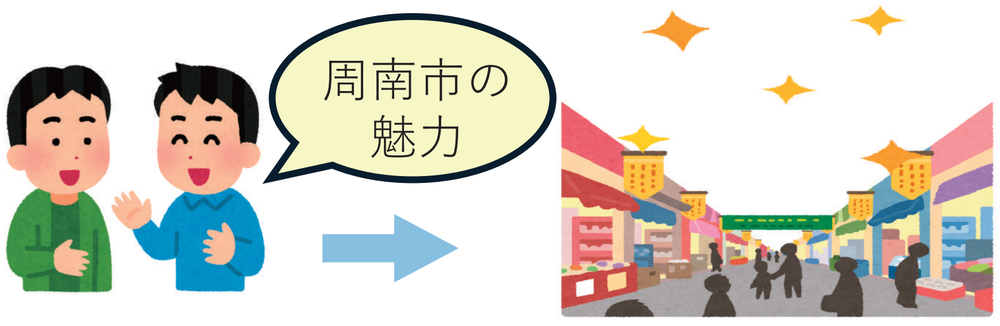
徳山ふぐ

須金のフルーツ　　藤井牧場

といった周南の食に関する事業について、３つの班に分かれて研究を行っていました。そして、今回の周南スタディⅡでは、３つの班がまとまり、周南スタディⅠで学んだ食の魅力を生かす工夫を活用して商品開発を自分達で行っています。

目的（理由）

商品を開発しようと思った理由は、開発した商品を通して、周南市の魅力を知っていただき、周南市全体の**活性化**につながるとよいと考えたからです。



開発した商品の**「周南フルランタン」**は、周南市須金地区のフルーツを使用しています。須金地区はフルーツが有名であり、「周南フルランタン」を様々な地域で販売することによって、須金のフルーツについて多くの人に知っていただくことを図っています。

フランソワ・河村大地社長より

自分の中に、「〇〇は焼き菓子には使えない材料」などといった固定観念がいつの間にかできていました。
高校生からアイデアをもらうことで、新鮮な気持ちで仕事をすることができました。
今後も、高校生の無邪気で純粋な発想が、我々の可能性をさらに広げてくれるのではと期待をしています。

商品開発のこれまで

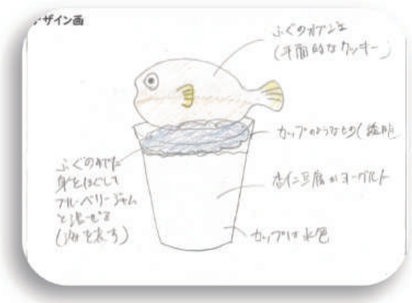
まず最初に、私たちは『周南の材料を使ったお土産』をデザインしました。
今回協力していただいた和洋菓子専門店・フランソワさんに見ていただき、最終的に開発する商品を決定しました。それが『周南フルランタン』です。このお菓子はフランスの伝統菓子であるフロランタンに、周南市の須金地域で栽培されているフルーツを使用したものです。

①商品の考案

どんなお土産がいいかなぁ

デザイン案提出

②商 品 決 定

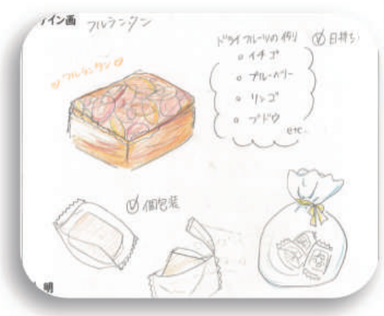


▼ジャム製作の様子

③製作・試食

④完成・販売

【現在の販売状況と今後の予定】
フランソワ店頭にて販売開始（11月末～）
1/11　おさんぽマーケット
2/11　徳山デッキ
などで販売予定



今後の展望

「周逸グランプリ」でグランプリを取ることを目標に、フランソワさんと協働して進めていきたいです。
グランプリを取った場合は、周南市などとも協力できるので、より広い視点で活動していきたいです。
また、フランソワさん店頭以外での販売活動も準備をしていきたいです。開発した商品を通して、周南をもっと知ってもらえるように工夫をしていきたいです。

画像：いらすとや(https://www.irasutoya.com/)・徳山ふくセンター・福田フルーツパーク・藤井牧場・フランソワ

大道地区から広がる探究の連鎖 ～未来プラニングで深化する学び～

山口県立防府西高等学校

1年次「産業社会と人間」での地域の課題を解決する学習の成果を2，3年次の「総合的な探究の時間」の課題研究へ

○本校が所在する大道地区の特徴

・地理・規模…防府市の最西部に位置　面積：約25平方キロメートル　人口：約4,400人、世帯数：約2,300
・教育・文化…「文教の地」幼稚園から短期大学まで教育機関が充実
・福祉・医療…「福祉のまち」福祉施設が整備、医療・保健施設が充実
・産業…農地の基盤整備事業が進み、農業振興の新しい息吹あり

○大道地区から広がる学び…ローカルからグローバルへ

・地域が抱える課題に触れる⇒自分が社会の一員であることを実感
　⇒社会問題を主体的に考え、改善しようと行動する姿勢を身に付ける
　⇒地域の課題解決から日本、世界の課題解決へ
・課題研究の基礎を学ぶ…フィールドワークの実施や研究成果をまとめる等、研究の基本を学ぶ
　⇒各自で設定したテーマの研究へ発展

1年次の「産業社会と人間」

大道地区の課題を解決する学習を実施

ア　大道地区の歴史・文化等に詳しい講師を迎えて講演会を開催
イ　グループに分かれて、地域の方々との会合の中で見出された地域産業や社会福祉などに関する課題から一つを選んで調べ、地域の課題に対する理解の深化
ウ　「ＤＡＩＤＯラリー」の実施…課題ごとにグループに分かれてフィールドワークを実施
エ　課題解決についてのレポート、ポスターの作成
　⇒ポスターの校内発表会⇒本校文化祭、地域での掲示

2、3年次「未来プラニング」（総合的な探究の時間）

２年次１学期

・１年次での地域課題解決の学習を深化させ、研究手法を学び、自らの研究の道筋を見出す
・自らの興味・関心や進路に応じた課題を見つける

２年次２学期～３年次

・個人で設定した課題を具体的に探究する

１年次の学びが深化した個人研究の具体例

地域との接点をつくることにより大道地区でフィールドワークを実践し、研究の足掛かりとし、研究範囲を広げていく

○具体例１…チーム分けの方法の違い

２チームに分ける場合、じゃんけんの「グー・パー」または　「グー・チョキ」にするか、手のひらの「表・裏」とするか、地域や世代によって異なる。この違いについて、まず大道地区において、フィールドワークを実施した結果、かつては「表・裏」を使用していたが、若年層は「グー・パー」を使用していることがわかった。この成果をもとに、調査対象の地域をさらに拡大していく。

○具体例２…障がい者が住みやすいまちづくり

バリアフリーがどの程度進んでいるかについて、まず大道駅周辺から調査をはじめる。
また、実際に大道地区在住の障がいを持つ方にインタビューを実施する。

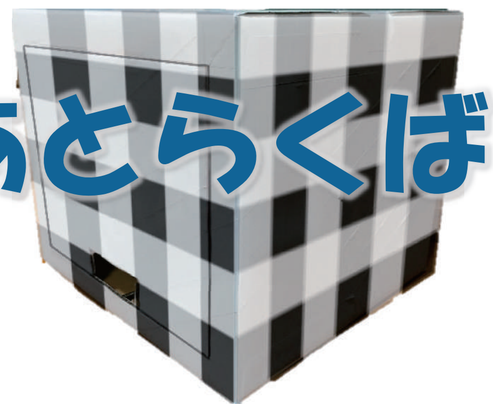
賞　あとらくばこ　～引っ越しする日もそのあとも～

山口県立山口高等学校

私たちは地域の引越業者と連携し、引っ越し後も使えるダンボール箱を提案しました

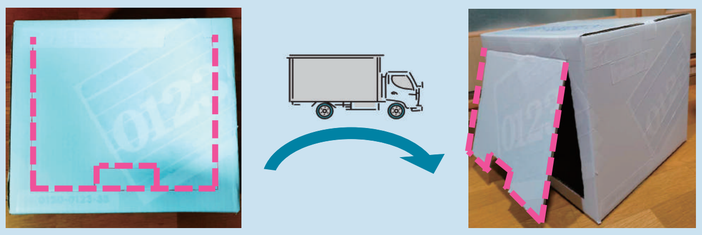
「めんどくさい引っ越し」を楽にする

あとらくばこ



1. 引っ越しの**後**も**楽**なはこ
2. お客様を**アトラク**ト（魅了）する**アート**なデザインのはこ
3. **アート**引越センターの作る、お客様の**楽**しい生活をお手伝いするはこ

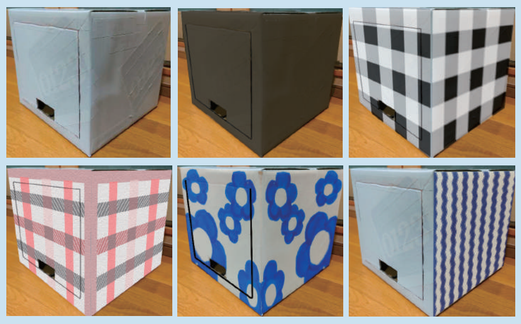
ダンボールが**収納ボックス**として使える



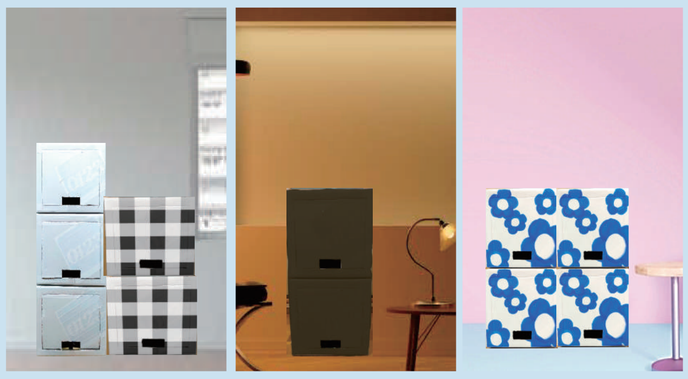
側面にミシン目の入った
ダンボールに荷物を詰める

引っ越し先で切り離して
収納ボックスに！

ダンボールのデザインを選べる



重ねて、組み合わせて使える！



あとらくばこ購入の流れ

見積り申し込み時に、

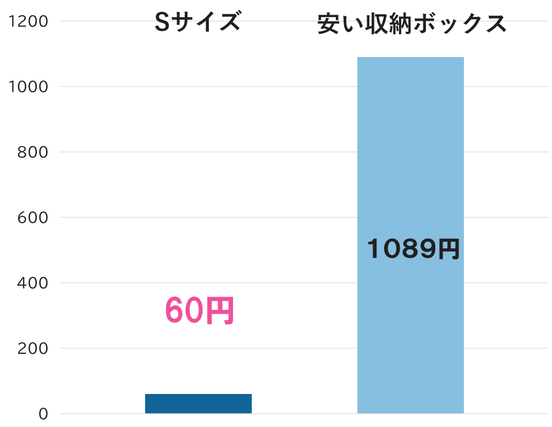
① 通常のダンボールと別に
　あとらくばこを追加で購入

② デザインを選ぶ

③ あとらくばこに荷物を詰める

引っ越し後、
切り取って
部屋に置くだけ！

あとらくばこの価格比較

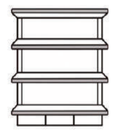


※安い収納ボックスの価格は楽天市場より

あとらくばこのエコさ

ダンボール
リサイクル率：９５％

家具
リユース率：１６％

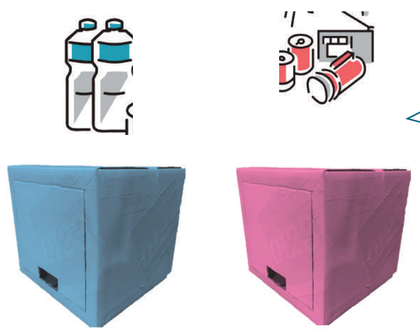


SDGsに貢献

多様な宣伝方法

思いやりとあとらくばこが結びついた活動

社会貢献活動　　**災害支援物資**



届いた物資が
すぐ取り出せる

避難所などで
収納ボックスとして
使える

アート引越センター現場の声

実際にアート引越センター山口営業所さんに伺い、話を聞くと

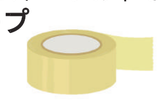
◎・すごく素敵な他にはないアイデア！

・環境面に力を入れているのでリサイクルでき、地球に優しい点が良い！

Q.　印刷したダンボールにテープを貼ると、すぐ剥がれないか？

Q.　物がぎっしり詰まっていない場合、運送中に中身が動いたときに大丈夫か？

三種類(紙・布・OPP)あるガムテープの中で
最も強度の高いOPPテープ
をセットでつける！



①取り出しやすい範囲でなるべく詰めていただく

②緩衝材(広告紙など)を
隙間に詰める
※広告で中身が動きにくくなることは実験済

Take Action! ～しなやかにつながる竹の未来～

山口県立山口松風館高等学校

1．探究の動機

山口県の魅力や課題について授業内で調べる

課題

倒竹による電車の遅延
竹林の増加による熊被害

県内の竹被害について知る

バンブーミッションの職員の方をお招きし、講演をしていただいた。

山口県の竹林面積 ➡ 全国４位

放置竹林の増加 ➡ 森林機能の低下
➡ 鳥獣被害の拡大

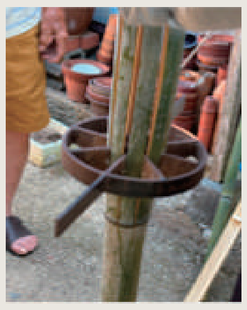
自分たちでも竹害を減らすために利活用につなげたい！

竹製品を作って展示しよう！

2．活動内容

①フィールドワーク

倉重 泰夫さん



自分の山で伐採した竹で竹細工を制作されている。

◀竹で編んだ
フラワースタンド

やまぐち里山ネットワーク

主に植樹活動や木製、竹製の遊具づくりなどをされている。

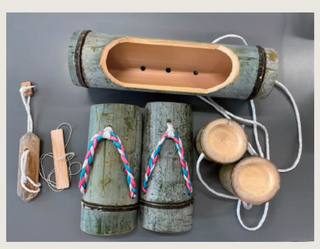
ソプラノクロンプット、竹笛作成の様子▲

竹ラボ

宇部市小野地区の廃校を利用し竹に関する情報を発信、展示をしている。

◀日本に存在する竹の種類

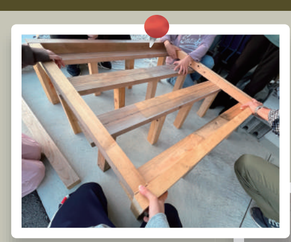
竹林ボランティア防府



放置竹林を利用竹林として活用する活動をされている。

▲ボランティアの方と作った竹プランター

②ベンチの作成



③文化祭での展示

▲展示の様子

松風祭で竹製品を展示。竹の魅力と竹被害の現状や竹の利活用について知っていただいた。

委員の方々▶

松風祭終了後に開催された学校運営協議会で、竹ベンチが紹介された。

3．検証・今後の展望

検証

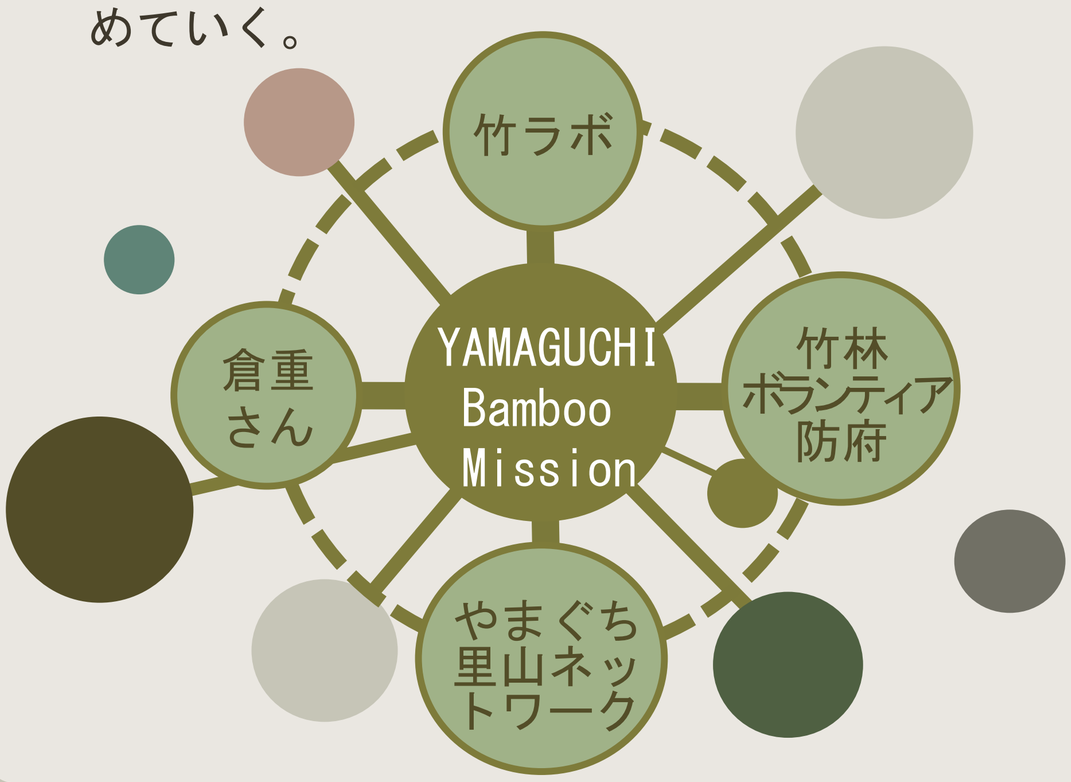
幼稚園で実際に製作したおもちゃを体験してもらう。

おもちゃの改善点や新しいアイデアの共有

今後の展望

- <u>後継者問題</u>…高齢化等による後継者やボランティアの不足
- <u>情報発信課題</u>…竹を扱う個人や団体等の情報が入手しにくい。

- 個人や団体をネットワークで繋げられるように一元管理する仕組みを提案
- 自ら竹の活動に参加し、竹に関する情報を広めていく。



戦争の記憶の継承

山口県立西京高等学校

○探究の動機

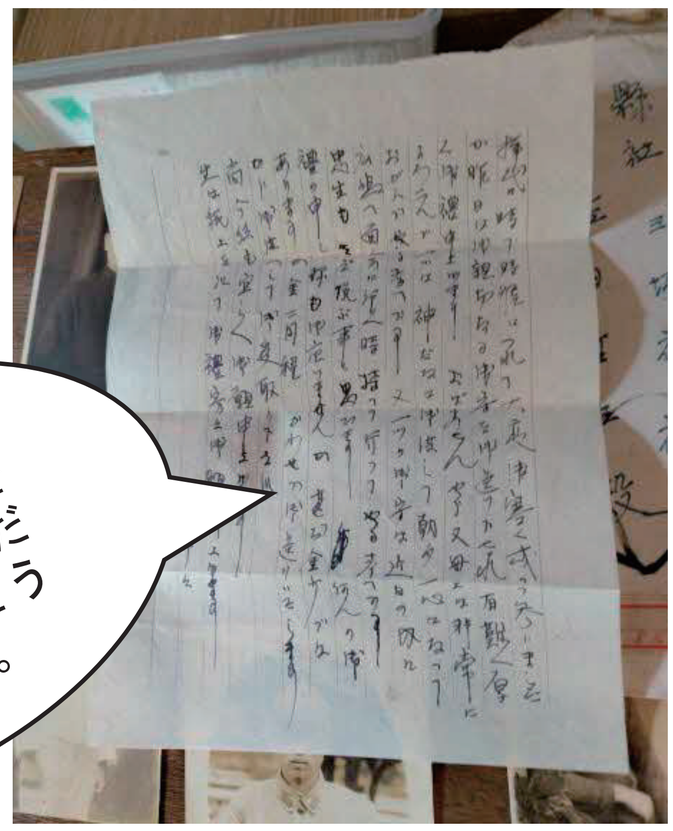
今年は戦後80年であるが、多くの人が戦争について知らない。そこで戦争のことをより多くの人に知ってほしいと考えた。

○内容

・「戦争と平和」という映画を見に行った時、三坂神社の江端宮司からお話を伺いました。
　その中で、手つかずのまま残っている謝礼状の存在を知り、これをデジタル化して後世に残すべきだと考えるようになりました。江端宮司の協力も得られることになり、謝礼状のデジタル化に取り組むことになりました。

神社に奉納されていた遺族の写真を家族に戻してくださってありがとうございます。

〈三坂神社にある謝礼状の原文〉



○池本さん（戦争体験者）の話

池本さんは過去に三坂神社による遺族の写真の返還活動を手伝っていました。

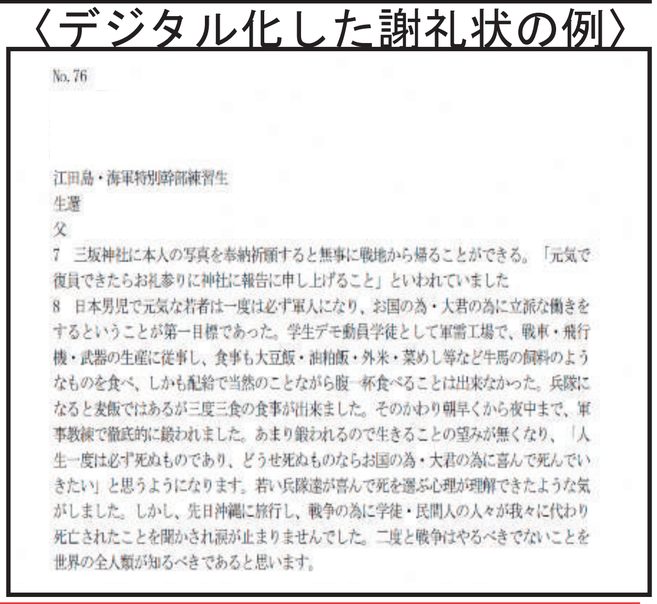
・三坂神社の写真の返還活動は、教師をしていた時に生徒と一緒に行いました。

・今の日本が今後海外の国々とどのように付き合っていくのか不安です。

・今の世界の国々は互いに理解しあい、仲良く付き合っていかなければなりません。

～ 現在１００通の手紙をデジタル化しました ～

〈デジタル化した謝礼状の例〉



No. 76

江田島・海軍特別幹部練習生
生還
父

7　三坂神社に本人の写真を奉納祈願すると無事に戦地から帰ることができる。「元気で復員できたらお礼参りに神社に報告に申し上げること」といわれていました

8　日本男児で元気な若者は一度は必ず軍人になり、お国の為・大君の為に立派な働きをするということが第一目標であった。学生デモ動員学徒として軍需工場で、戦車・飛行機・武器の生産に従事し、食事も大豆飯・油粕飯・外米・菜めし等など牛馬の飼料のようなものを食べ、しかも配給で当然のことながら腹一杯食べることは出来なかった。兵隊になると麦飯ではあるが三度三食の食事が出来ました。そのかわり朝早くから夜中まで、軍事教練で徹底的に鍛われました。あまり鍛われるので生きることの望みが無くなり、「人生一度は必ず死ぬものであり、どうせ死ぬものならお国の為・大君の為に喜んで死んでいきたい」と思うようになります。若い兵隊達が喜んで死を選ぶ心理が理解できたような気がしました。しかし、先日沖縄に旅行し、戦争の為に学徒・民間人の人々が我々に代わり死亡されたことを聞かされ涙が止まりませんでした。二度と戦争はやるべきでないことを世界の全人類が知るべきであると思います。

○まとめ（私たちの心情の変化）

『戦争をしてはならない』という言葉について

池本さんの話を聞く**前**

　戦争そのものよりも、そこで人が命を奪われる行為を戒めているのではないだろうか。

聞いた**後**

　戦争を体験した人と体験していない人では、戦争に対する視点も考え方も異なるので様々な解釈がある。

戦争を防ぐためには、『怖い』『不安だ』と感じる気持ちだけではなく、様々な立場にある人の戦争が起きるまでの心の動きも知る必要がある。

○現在の活動

　あらゆる視点からの意見を聞くために留学生との話し合いを目標とし、国際交流ひらかわの風の会などの交流会に積極的に参加しています。

○御協力いただいた方

・池本忠平様　・江端希之様（三坂神社宮司）　・明英様（山口大学留学生）

音楽を通して広がる地域とのつながり ～小学生との協働的な学び～

山口県立宇部高等学校

１．動機

１年時に行った上宇部中学校への合唱訪問を通して、音楽が年齢を超えて人と人をつなぐ力をもつことを実感した。この経験から、地域の人々と音楽で関わる機会を自分たちで創り出したいと考えるようになった。

しかし、個人探究では時間確保が難しかったため、音楽科での実施を相談したところ、「自分たちで企画して協力しながら授業として形にできるなら可能」と言われ、履修者全員で取り組むことになった。

２．研究方法

① アイデア出し（ブレインストーミング）

履修者全員で意見を出し合い、保育園や幼稚園、小学校、老人ホームなど、さまざまな場所での活動案が出た。

② 目的に沿った活動内容の選定

案を比べ、活動の目的や進めやすさを考えて、小学校での実施が最適だと判断した。

老人ホーム案も魅力的だったが、時間の都合で見送った。

③ 実施校への事前聞き取り調査

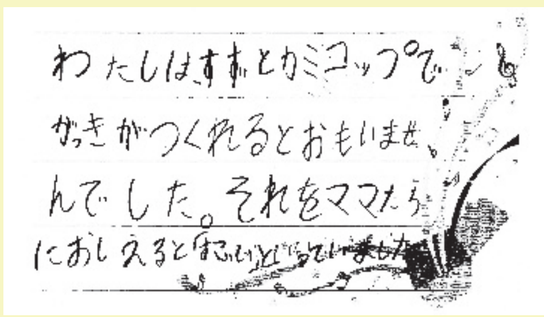
上宇部小学校の濱本先生に、学年の実態や活動時の注意点についてお話を伺った。実際の児童の様子や学校現場の視点を知ることで、計画の改善につながった。

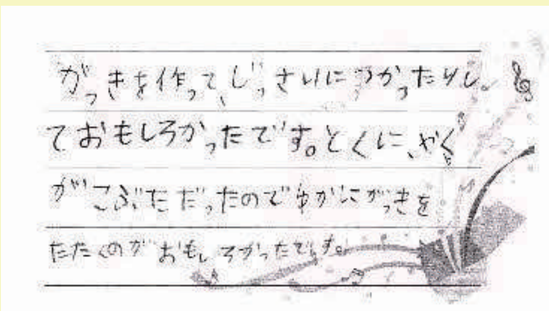
３．実践内容（１）

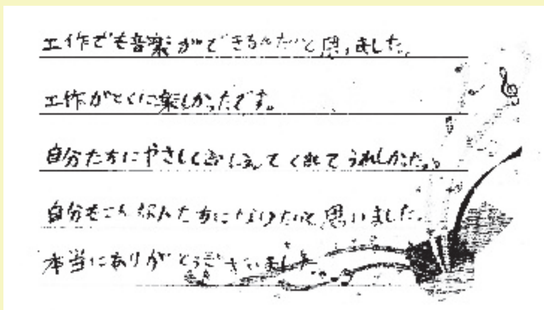
◆ 実践１「楽器づくり」（対象：小学校３年生）

ねらい：身近な素材から音の仕組みを知り、音づくりの面白さを味わう。

内容：紙コップにビーズや鈴を入れ、オリジナルの楽器を制作した。





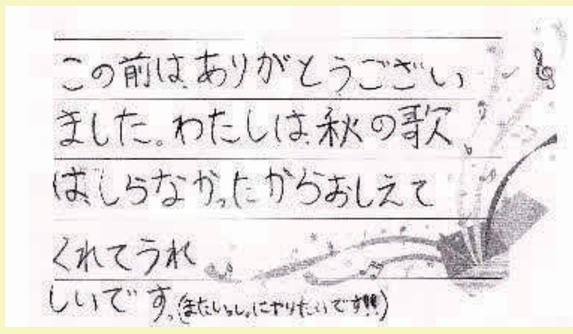


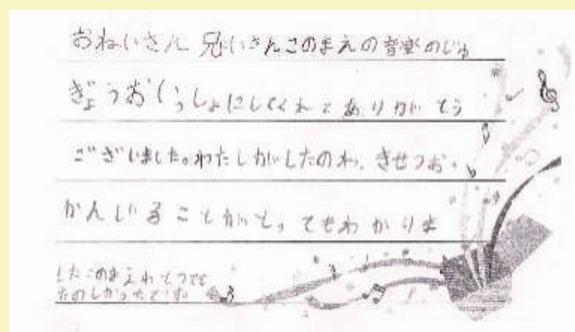
◆ 実践２「童謡かるた」（対象：小学校３年生）

ねらい：音の特徴を手がかりに楽曲を聞き分ける力を育てる。

内容：読み手を音楽に置き換え、曲を聞いてカルタをとる形式で実施した。活動前には春夏秋冬それぞれの童謡の特徴を共有し、曲の雰囲気を事前に確認した。

３．実践内容（２）





◆ 実践３「音楽鬼ごっこ」（対象：小学校５年生）

ねらい：曲のジャンルごとの特徴を、遊びを通して体験的に理解する。

内容：①「クラシック音楽」「日本の古典音楽」「世界の諸民族の音楽」「ゲーム音楽」の特徴を共有する。②流れる音楽のジャンルによって、鬼が捕まえられるかどうかのルールを変えて鬼ごっこを行う。

４．まとめ・展望

音楽の楽しさを伝えるには、説明や教材、曲の選び方を工夫することが大事だと感じた。小学生が音を聴き分けたり動いたりする様子から、一緒に楽しめていたと思うし、年齢の違う相手とかかわることで協働して学ぶ良さも実感できた。

一方で、準備不足で進行が止まることもあり、計画や役割分担の大切さがよく分かった。今回の経験を生かして、これからは他の学年や地域の人とも協力しながら、音楽の学びをもっと広げていきたい。

５．謝辞

本実践にご協力いただいた上宇部小学校濱本先生をはじめ、関係の先生方に深く感謝申し上げます。

宇部線の本数と宇部市の人口の関係性について

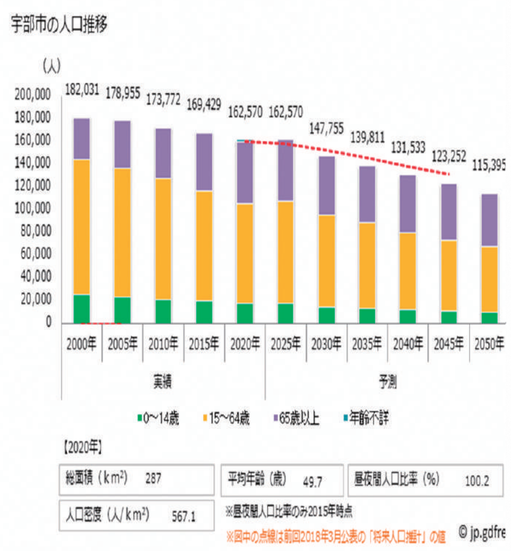
山口県立宇部商業高等学校

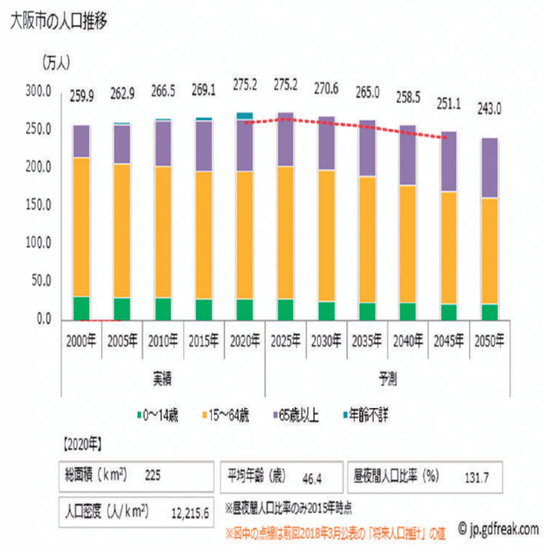
活動の動機

「総合的な探究の時間」の授業の中で、山口県の課題について考え、私たちが日々の生活の中で一番困っていることは「宇部線の本数が少ないこと」だと気づき、これをテーマにして考えを深めたいと思った。

仮説：宇部市の人口が減少しているので、宇部線の本数も少ないのではないか

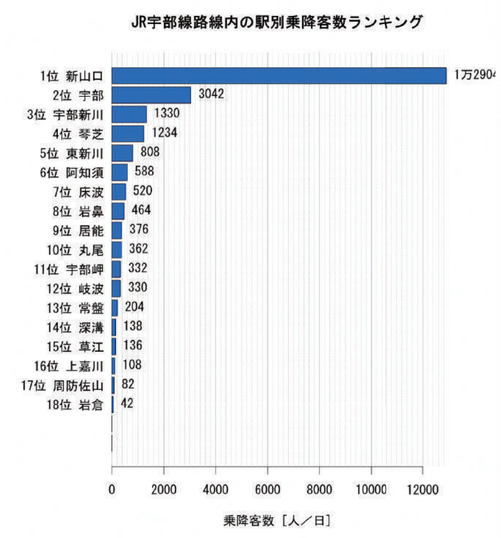
①宇部市の人口の推移と大阪市の人口の推移

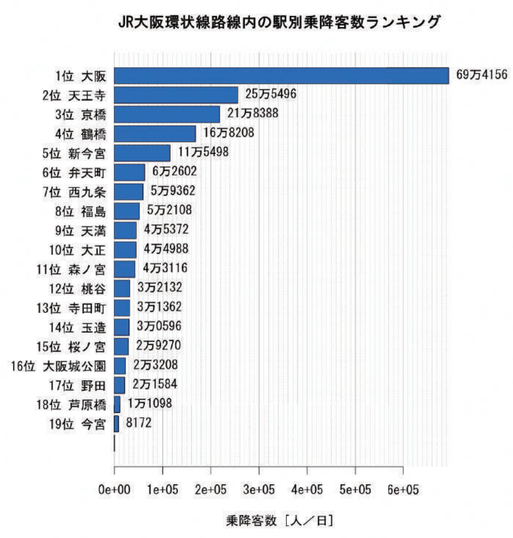




宇部市は人口減少と高齢化が進んでおり、それが宇部線の本数が少ない要因だと考えられる。

②宇部線路線内の駅別乗降客数 大阪環状線路線内の駅別乗降客数





宇部線は乗降客数が少なく、過疎化の影響が見られるが、乗降客数は市外利用者も含むため、人口との直接的な関連は弱い。

考察：宇部線の本数の増加には宇部市の人口だけではなく、観光客などの数も関係してくるのではないか

検証：宇部市職員から説明、提案を受ける（多様な他者との協働的な学び①）

宇部市役所政策企画課職員から宇部市の「まち ひと しごと創生総合戦略」、「人口ビジョン」、「未来プロジェクト」について説明をして頂き、宇部市には多くの課題があることを知るとともに、課題解決に向けて協議した。

本研究の発表と成果（多様な他者との協働的な学び②）

経済、医療、衣食住、教育、インフラ、地域の６分野に分かれ、分野別発表会を実施し、学年代表を選考。その後、学年代表発表会を実施し、全生徒による相互評価と投票を行い、学校代表を選抜。この際、すべての教職員に発表会への参加を呼びかけ、指導助言もあり、研究内容を深めた。

探究を通じて身についた資質、能力

課題発見能力、情報収集能力、情報分析能力

参考文献

1. 「GD Freak」https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp0100500000001035202/15#google_vignette

2. 「統計情報リサーチ」
https://statresearch.jp/traffic/train/passengers_line_ranking_108.html
（「国土数値情報（駅別乗降客数データ）」国土交通省国土政策局・令和5年度を加工して作成）

工業高生が挑む地域課題解決 ～小野茶の現状から学ぶ持続可能性～

山口県立宇部工業高等学校

～工業高校生としての地域連携とは何かを考える～

＜背景＞ 専門高校生として何を学び、
どれだけの力を身に付けてきたか？

＜行動＞ スクールミッション
“地域社会を支え、産業の持続的な発展を担う人材”になるべく地域社会へ興味・関心をもち、地域が抱える問題や課題を“自分ごと”として捉え、解決へ向けて自分に何ができるかを考えて行動する。

＜目標＞
この活動で身に付けた解決能力を他の課題解決に応用し、解決に向け取り組むことを目標とする。

＜準備＞ グループワーク
これからの課題への取り組み方を学ぶ

＜活動＞ 現状を知る ～現場の生の声を聴く～
我々の高校がある宇部の地元にはお茶の産地があり、小野地区には広大な茶畑が広がっている。しかし、我々はどれだけ小野茶を取り巻く実情を理解しているだろうか。
現状を知るため、生産者・経営者からの生の声を聴くことで現場の抱える課題を実感する！
現地への訪問や招聘による拝聴など、直接お話を伺い体験することで今抱える問題や課題を身近に感じて自分の問題として置き換える。

“自分ごと化”

＜探究対象を知る＞ ～お茶は奥が深い～
・お茶の淹れ方によって味は大違い！
茶葉とお湯のバランス、　湯を入れる前のひと手間、
お湯の温度、　急須内での蒸らし時間
によって味は変化する！！
・茶葉をすり鉢で粉末にすると、粗さの程度によって香りも味にも差が生まれる。
非日常な体験から対象への興味と愛着が膨らむ！

＜課題設定＞～地域社会は何を求めているか？～
いま抱えている、お困りごと（茶業の例）
☆１人で作業ができる作業機械
→２人１組でないと作業ができない。
☆事業継続のためには、廃業者の区画を新規就農者に引継ぐ仕組み
→廃業区画を現就業者に引渡すため、負担が増える。
☆作業負担軽減ができる器具
→大変な負担の作業が多く、新規就業を勧められない。
☆人手不足
→人手が必要なときに人がいない。
☆後継者不足
→やりたい人とのマッチング。
課題は、ほかの業種にも当てはまる

経営者からの課題

“ 地域の困りごとを解決する一助に ”

～グループワークの手順～
『持続不可能なこと』を『持続可能なこと』へ
～地域課題を自分ごと化へ～
今できないことの **“ なぜ ”** を考え、どうすれば **“ できること ”** に変えていけるのか？
生徒一人ひとりが考え、グループで話し合い、そして発表を繰り返す。

グループワークの様子

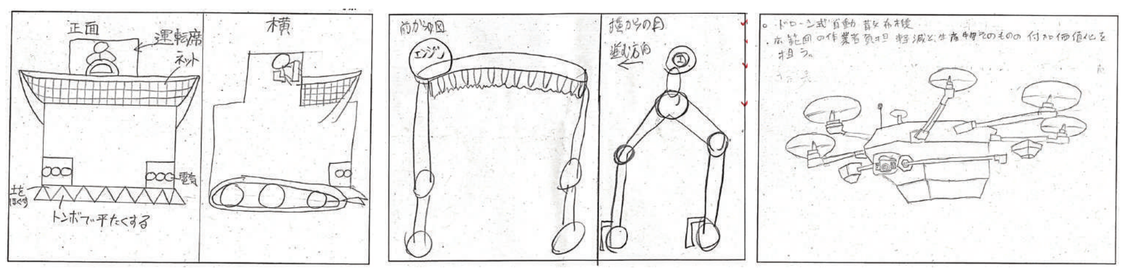
◎地元宇部の特産である小野茶においても、茶園の維持や後継者問題が存在し、持続可能性について考えられている。
◎現場の声はイメージが膨らみ・問題改善提案への意欲が湧く。まず何よりも、普段当たり前のように飲むお茶について、
自分たちが何も知らない
ことを知ることとなる。

経営者の講話

お茶の淹れ方

お茶を挽く

＜課題解決＞へ向けて、考えや発想を形に
～アイデアスケッチの一例～



＜振り返り＞
・人手不足と作業者の高齢化が本当に深刻な課題になっていると感じた。
・茶業従事者が少なくなり、大変になってきていることを改めて知った。
☆本校には、アイデアを形にする、
機械研究部、　メカトロ部、
ものづくり研究部、　ESD部
の４科の特徴を生かした部がある。

＜今後の展望＞
・普段我々が学ぶ専門性を生かした地域連携を模索する。
・地域からの依頼を待つのではなく、地域とのつながりをより深くし、普段から意見交換がしやすい関係性の構築を実現する。
・３年次の課題研究において１年間をかけて研究することを念頭に１・２年次から課題設定を意識する。

西日本最大級の農場を有する地元企業を起点とした観光促進モデル

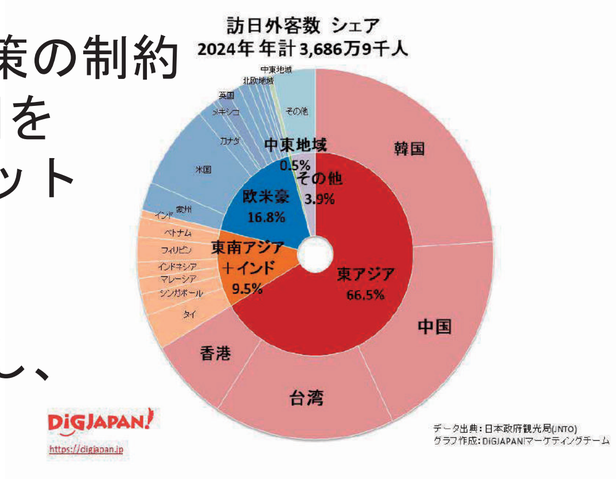
-花の海くじ×QRコードを活用した地域回遊-

山口県立小野田高等学校

◆背景と課題

〇山陽小野田市の問題点
- 人口減少の進行
- 財源不足による観光施策の制約
- 観光客の多いアジア3国をターゲットにしたスポットが少ない。

〇課題
山陽小野田市を活性化し、観光を促進するにはどうすればよいか。



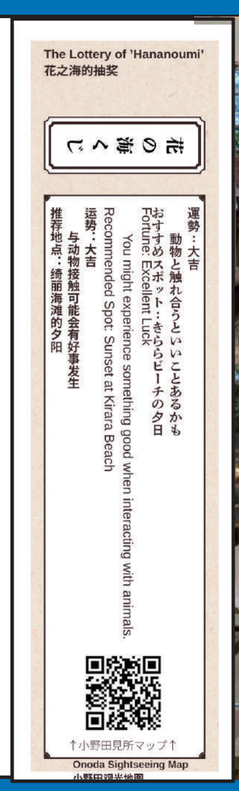
◆仮説

おみくじ「花の海くじ」×QRコードで、興味ゼロ層にも小野田を「知る」→「巡る」行動を誘発できる。

誰にでも手に取りやすい**おみくじ**を入口として興味を引き、さらに**QRコード**を通して小野田の魅力を知り、**回遊行動**が生まれると考えた。

◆方法　-どう検証したか-

①西日本最大級のシステム農場を持つ地元企業「花の海」に協力依頼し、おみくじ「花の海くじ」を設置
②おみくじ１枚ごとにQRコードを付与
（読み取り先は、小野田の見所紹介ページ）
③手に取りやすくするために、オリジナルの小野田のマスコットキャラクターを制作し、誘導する。
④おみくじのひかれた数、QRアクセスを記録し、検証する。



◆結果１

期間11月3日（月）～11月18日（火）
設置数　475枚　　引かれた数　378枚
ユニークアクセス数　8　　総アクセス数　21
→アクセス率(%)　8÷378×100≒2.12(%)
引かれた数は多いものの、アクセスした数が少ないため外国人観光客にも対応できるように３ヵ国（韓国語、英語、中国語）をおみくじに取り入れようと考えた。

◆結果２

期間11月19日（水）～11月27日（木）
多言語版おみくじ設置数：210枚
引かれた数　96枚
ユニークアクセス数 4　総アクセス数6
→アクセス率(%) 4÷96×100≒4.17(%)
多言語版の導入により、QRアクセス率が上昇した。

多言語化は訪日外国人の理解の壁を下げ、行動につながる入口として効果が高いことが分かった。

◆考察

おみくじを設置したことによる成果

〇良かった点
- 結果2までの改善を通しておみくじは計515枚引いてもらうことができ、それだけの多くの人に小野田の観光スポットを知ってもらうことができた。
- 多言語版を作ることで、伝える対象を広げることができた。

〇改善点
- 小野田を知ることしかできていない可能性がある。（実際に観光地に行った人がいるかがわからない）

↓

おみくじを引いた人からの感想が知りたい。

◆今後の展望

この活動の最終目標は「観光の促進」であるから、おみくじを引いてもらうだけではなく、観光地へ実際に足を運んでもらいたい。どれくらいの人が観光地に訪れているかを「意見箱の設置」などの改善をして調査する必要がある。それによって小野田の観光に貢献出来たのかを見ていきたい。

「明るく進め！～地域と創る新たな厚狭～」

山口県立厚狭明進高等学校

『歴史と自然が息づくまち・厚狭』

○ＪＲ厚狭駅前に「寝太郎」の銅像が設置されるなど、「寝太郎」は地域の象徴
○ＪＲ厚狭駅前のレトロな街並み
○厚狭川沿いの桜並木など豊かな自然
○火薬や化学製品の製造等、産業の町として発展
○田部高校と厚狭高校が統合され、両校の伝統を受け継ぐ学校として令和７年４月に厚狭明進高校が開校

課題

商店街の衰退化

少子高齢化

水害からの復興

厚狭のまちを私たちの力でもっと盛り上げたい！

ASA project 3つのテーマ

1. 商店街の活性化
2. 郷土文化の継承
3. 厚狭の魅力発信

商店街の活性化

☆目的

・商店街の現状を知り、厚狭の商店街の魅力を広く発信！

☆わたしたちの挑戦

・商工会議所訪問
➡　店舗数減少の現状を把握し、地域と協力した商店街の活性化の推進
・厚狭小学校児童が願う商店街を調査
➡　児童と共に幅広い世代に愛されるまちづくりを提案

☆未来へ

・イベントの際に地域と連携し、商店街の空き店舗を活用して小学生が夢見る駄菓子屋や高校生によるCaféを実現

郷土文化の継承

☆目的

・伝統を守り、地域活性化に貢献！

☆わたしたちの挑戦

・「寝太郎音頭」の継承
➡　継承者から歴史や踊り方の指導を受け、地域に継承する方法を検討
・厚狭の歴史調査
➡　日本で３番目に古い女学校を厚狭に設立した毛利勅子先生の生涯を調査

☆未来へ

・地域の保存会と連携し、小学生や地域の方に寝太郎音頭の踊り方や歴史を広め、郷土文化を継承

厚狭の魅力発信

厚狭明進高校キャラクター
うるぱる
あいば

☆目的

・歴史を尊重し、私たちのアイデアで厚狭の未来をデザイン！

☆わたしたちの挑戦

・厚狭明進高キャラクターの考案
➡　地域投票で決定したキャラクターを活用し、厚狭明進高校の魅力を発信
・新商品の開発
➡　厚狭と菊川の特産品を融合した『かぼちゃめん』を考案

☆未来へ

・地域のお祭りやオープンスクール等で厚狭明進高校のキャラクターが学校の魅力と新商品を積極的にＰＲ

●「ASA project」発表会　in厚狭複合施設体育館●

－地域の方から－

・厚狭を愛する気持ちがあふれる研究ばかりで胸が熱くなった。
・昔の厚狭の話を真剣に聞いてくれて嬉しかった。
・厚狭の未来について高校生と語り合えた時間は貴重だった。
・イベントの際に空き店舗を活用してはどうか。
・高校生とコラボしてイベントをしたいと思った。

厚狭を愛する心が芽生え、地域の温かさに触れながら、これからも
<u>一緒に未来を創っていきたい！</u>

「地域を照らす光になる！～学校や地域を、もっと笑顔に～」

山口県立田部高等学校

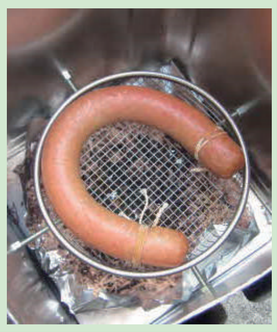
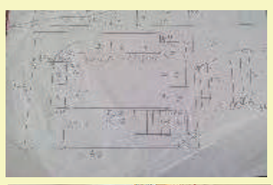
○活動の目標・方針

【課題設定の動機】
自分たちの足元に目を向け、身近な魅力に気づき、学校や地域をもっと元気にするために、できることに取り組みたい。閉校を前に、人が減り寂しくなっていく学校を、自分たちの力で明るくしたい。以上のような狙いのもと、自然・校歌・人口減少・グッズの４テーマを設定した。

【活動のサイクル】

知ろう！ → やってみよう！ → 広めよう！

○活動内容

	自然班	校歌班	人口減少班	グッズ班
知ろう！	**菊川町と自然を知ろう** ○アイガモ農法の実態調査 ○鹿や猪の生態を学ぶ ○苗や花の育て方を学ぶ 	**校歌を知ろう** ○歌詞に読み込まれた地を巡る ○歌詞の意味を学ぶ 	**菊川町の現状を知ろう** ○地域の課題を学ぶ ○地域を元気にする方法を学ぶ 	**菊川町で知ろう** ○デザインするとは ○求められる商品とは
やってみよう！	**菊川町の自然を活用しよう** ○竹の活用 ・竹を使った流しうどん ・竹チップを使ったジビエの燻製作り 	**校歌を歌おう** ○３部合唱に編曲 ○ソプラノ歌手の池田先生によるレッスン ○校歌動画の作成 	**子供の遊び場を作ろう** ○段ボール迷路 ○たべっちを探せ ○ジェットコーター製作  	**つくってみよう** ○手作りグッズの作製 ○押し花しおりづくり ○オリジナルで発注！
広めよう！	**菊川町の自然を広めよう** ○もちもちジビエピザ ○文化祭でぶちうましし鍋 ○コスモス畑の迷路で園児と交流 	**校歌を形あるものにして残そう** ○オルゴールの製作 ○YouTubeで公開する校歌動画の作成 ○バルーンリリース 	**菊川町の子どもの休日を笑顔にしよう** ○木製ジェットコースターで遊ぶ ・空き教室の活用 ・移動式で出張可能 	**販売しよう** ○文化祭 ○同窓会総会 ○菊川文化産業祭
苦労	重労働のつらさ	歌声をそろえる難しさ	作業が超大変	0から1をつくる
次は	残すにはどうすれば	包装紙や冊子を手作り	出張での活用	物語を商品に込めたい

○考察・今後の展望

家具職人、建築士、女性猟師、ソプラノ歌手、地域食堂、デザイナー、道の駅の駅長の皆様。私たちが総探を進める中で、地域の方々の力はなくてはならない存在でした。関わってくださる大人の皆さんのおかげで、私たちは「見守られている」「応援されている」という安心感を強く感じました。

一方で、「頑張っている高校生と関われて楽しかった」、「生徒の笑顔も、乗った人の笑顔も本当に素敵でした」など、私たちとの活動を通して大人の方が感動してくださる場面もありました。自分たちの行動が誰かの心を動かしていることを知り、嬉しさと自信につながりました。

そして、次のステージでは、これまで出会ってきた地域の大人の方と１対１で向き合い、自分自身のテーマで挑戦する「個人プロジェクト」が始まります。

自分たちだけの学年になっても、閉校が近づいてきても――私たち３５人は光り続けます！

南高弓道部×中学生つながりプロジェクト　～未来の一射へ～

山口県立下関南高等学校

南高弓道部×中学生 つながりプロジェクト

～未来の一射へ～

山口県立下関南高等学校

○総合的な探究の時間（１年）

テーマ設定 → 企画書作成 → アクション → アウトプット → 振り返り → テーマ設定

１周目：５月～１０月
２周目：１１月～２月

やりたいこと発見！

○動機

『どうすれば南高弓道部の魅力が中学生に伝わるか？』

課題
南高の弓道部は
中学生への認知度が十分でない

仮説
魅力が伝わるように情報発信方法を工夫すれば関心を持つ中学生が増えるのではないか

頑張っているけど知名度が低い・・・

男子団体で初の全国大会出場を決めた下関南高校の弓道部員たち＝下関市後日町

下関南高弓道部 男子団体
初の全国へ、練習に熱

ひたむきさで実力めきめき

山口新聞　11月30日（日）号より

○仮説をもとにした取組

①中学生向けの弓道部ホームページの作成

②中学生体験会の実施

③チラシ作成

①ホームページ作成

②中学生体験会の実施

《目的》

・弓道そのものの魅力を知ってもらう

・南高弓道部の魅力を知ってもらう

・安全性の確保
・スケジュールの厳しさ
など課題が山積み

→ 見学会に変更

③チラシ作成

中学生のみなさん！

下関南高校　弓道部です！

突然ですがみなさん、弓道って見たことありますか？実は南高弓道部は、全員初心者なのにもかかわらず、全国大会に出場を決めるくらい頑張っています！ですが、まだまだ南高弓道部のことを知らない中学生が多いのが現状です…。

そこで！
「弓道のおもしろさをもっと知ってほしい！」
「南高で一緒に弓道を楽しむ仲間が増えてほしい！」
という思いで、「南高弓道部見学会」を実施することにしました！
見学会は、下関球場の横にある「県立下関武道館」の弓道場で実施します。弓道場には観覧席があるので好きなだけ見ていってください！右の時間内であればいつ来てもいつ帰っても大丈夫です！

【見学会の詳細】
✓ 日時：2026/1/18(日)
10 時～12 時 30 分
13 時 30 分～16 時
✓ 場所：県立下関武道館2階
✓ 対象：中学生とその保護者（先生も含む）

弓道って「静か」「難しそう」って印象かもしれませんが…
的に当たった瞬間めちゃくちゃ気持ちいい！
男子も女子も関係なく楽しめるスポーツ！
しかも南高弓道部は、楽しい行事もたくさん実施している青春が詰まりまくった部です！右の QR コードから南高弓道部の魅力が詰まったホームページを見ることができます！見学会の追加連絡や変更がある場合は、ホームページ上に掲載します。

南高弓道部の紹介はこちら↓（中学生用ホームページ）

見学会では、全国大会に出場した先輩たちの射も見ることができます！どんな練習をしているのかとっても気になりますよね？南高弓道部の練習の雰囲気を見れば、入部したくなること間違いなし！

少しでも興味があれば、ぜひ遊びに来てね✨
みなさんに会えるのを、部員一同楽しみにしてます！

最後に…右の QR コードから、アンケートに協力していただけると嬉しいです！対象は中学生です！

南高弓道部についてのアンケートに御協力ください🙏

《目的》

・認知度を上げる

・部の魅力を伝える（イメージ形成）

・保護者と先生にも広まる（信頼性UP）

《内容》

・南高弓道部の紹介

・南高弓道部ホームページのＱＲコード

・見学会の詳細

○ホームページの作成を通して

ホームページへの掲載
↓
中学生の弓道部に対する
イメージアップ
↓
中学生の弓道部への
入部希望者の増加のきっかけ

○見学会を通して

部の雰囲気や活動を知ってもらえる
↓
中学生が安心して弓道に挑戦しやすくなる

○チラシ作成を通して

チラシを通して弓道部の魅力を分かりやすく発信
↓
見学会への関心や参加意欲が高まる

○活動全体を通して

発信方法を工夫する
↓
相手に伝わる内容・印象・情報の質が大きく変わる
↓
高校生の力でも
現状は変えられる！

○今後の展望

・取組の評価
入学者数の変化や入部者数の変化の分析
新入生への聞き取り調査

・南高弓道部体験会の実施
入念な準備による実現へ！

１年生だからこそまだたくさん挑戦できる！

空き家再生と心の架け橋 ― 特牛地区で築く移住と共生の未来 ―

山口県立下関北高等学校

探究①　講話から地域の課題を発見する

講話「（株）うみまちスタイルの取組」

隣家の異変に気づく
↓
行政に相談

所有者不明が判明
↓
４年後にようやく解決

空き家をリノベーション
（株）うみまちスタイルの起業

課題設定
情報収集

探究② ブレーンストーミング

「地域のためにどんなことができるのか」

ブレーンストーミングを実施
「うみまちフェス2025」開催決定
地域の若手事業者　×　学校

空き家×イベント

情報収集
整理・分析

探究③　フィールドワーク

イベント会場や空き家の視察

情報収集
整理・分析

探究④　情報発信

下関北高生からイベントのお知らせ

マルシェ「特牛漁港 de あわてんぼうの Christmas by うみまちスタイル」

日時：１１月２日（日）９時００分～１６時００分
場所：特牛港（メイン会場：民泊　海月館広場）
内容：下関北高生が企画・運営するスタンプラリー
みんなで作ろう４mのツリー
移住相談や空き家セミナー（事前申込制）
グルメ・雑貨・ワークショップなどの出店

下関北高校では、２年生の生徒が地域の課題を探究する授業「地域探究」に取り組んでいます。その地域探究の「観光・産業コース」が、（株）うみまちスタイルからのお声がけで、４月からイベントの企画や準備に関わってきました。

「私たち高校生にできることはなんだろう？」「地域のために何ができるんだろう？」から始まり、地域のことを学んだり話し合いを重ねたりして、このたび、本イベントでデジタルスタンプラリーをすることになりました。

楽しいイベントになるよう高校生たちが準備・運営を頑張ります！皆様ぜひお越しください。

下関北高等学校

イベント主催：namicaze（イベント実行員）
後援：下関市、株式会社うみまちスタイル

下関市からの後援
HP・インスタグラムで告知

チラシの配布

豊北小学校150枚

豊北中学校110枚

下関北高校112枚

まとめ・表現

探究⑤　うみまちフェス２０２５（イベントの実施）

探究の目的
地域の方の意識の変革をめざす
空き家セミナー参加者にイベントを通して特牛を知ってもらう

まとめ・表現

デジタルスタンプラリーの実施

限定スイーツの販売

BIGクリスマスツリー

探究⑥　まとめ・今後の展望

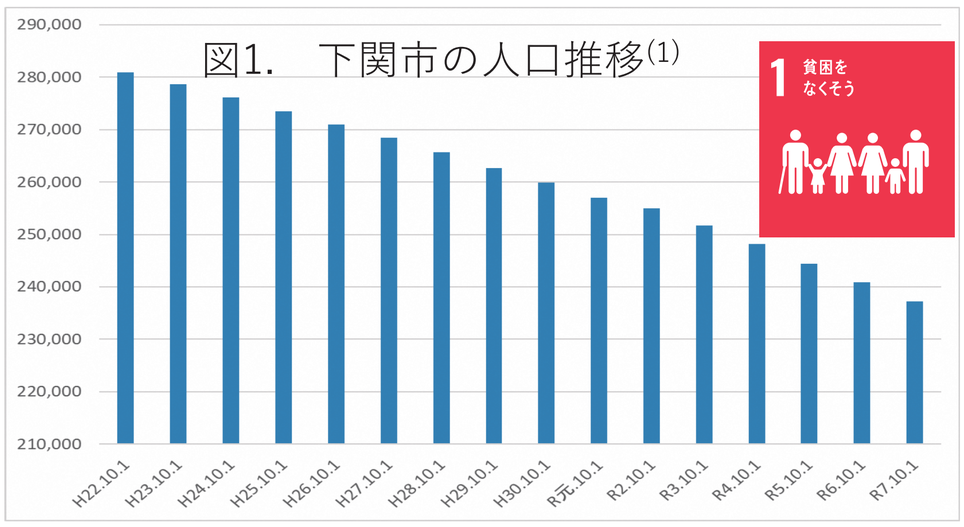
- 「うみまちフェス2025」は地域の魅力を発信し、世代を超えた交流を生み出す場となった。
- 来場者から「このまちに移住したい」という声が寄せられた。
- 地域のご年配の方々から「若者が頑張る姿を見て、自分も何かできるはず」「来年は自分たちも出店したい」という前向きな意見が多く聞かれた。
- こうした反応は、地域活性化に向けた大きな一歩であるイベントが単なる一過性の催しではなく、持続可能な取組へと発展する可能性を示している。

地域共育探究プロジェクト ～小さな遊び場から広がる未来への扉～

山口県立下関双葉高等学校

探究目的

・下関市では少子化や人口流出が課題となっている。地域の魅力を高めるためには、子どもが安心して過ごせる居場所づくりが重要だと感じた。
・私たちは、「川中れんげホーム」の活動に注目し、子どもの居場所を充実させることは、人口流出防止にもつながると考え、地域のためにできることを考えた。
・この活動はSDGsの目標にも関連しており、「川中れんげホーム」のボランティア活動をどうすれば充実できるかを探究テーマとした。



参考文献
(1) 下関市.“(5)人口・世帯数の推移(国税調査・推計人口)”.下関市.
https://www.city.shimonoseki.lg.jp/soshiki/134/1189.html（参照2025-12-05）

調査・結果

私たちは、実際に「川中れんげホーム」のボランティア活動に参加し、現場の様子を体験した。
また、来所している児童に対して「好きな食べ物は何か」「どんな遊びをしたいか」などのアンケート調査を行い、活動の実態や子どもたちのニーズを把握した。

【実際に参加して分かったこと】
1　「遊び場」と「子ども食堂」の二つの役割を果たしていること。
→ 子どもたちが安心して遊べる場所であると同時に、食事を提供する場として機能している。
2　低学年から高学年まで幅広い学年の児童が参加しており、毎回約４０～５０人が利用していること。
→ 地域におけるニーズの高さがうかがえる。

【アンケート調査によって分かったこと】
1　食べたいものややりたい遊びは多種多様であること。
→ 子どもたちの興味や好みは個人差が大きく、幅広い対応が求められる。
2　「また来たい」と答えた理由の多くが、「講堂で遊べて楽しい」「お弁当が大きくてうれしい」など、「遊び」と「食事」に関する満足感であること。
→ 活動の魅力は、食事の充実と遊びの楽しさにあると考えられる。

企画・実行

1 「遊び場」の充実

【企画】
・活動に参加した際、七夕の短冊つくりのイベントを行っていた。
→　季節のイベントを提案した。
・幅広い学年の児童がいることを踏まえ、複数の難易度の作品を準備し、誰もが楽しめる遊び場づくりをめざす。

【実行】
・ハロウィンのポップアート、装飾品のペーパークラフト制作を実施した。
・下関市立大学の学生にも協力を依頼した。
・当日は児童１５人が参加し、積極的に作品づくりに取り組む様子が見られた。

2 「子ども食堂」の充実

・本校の商業系列４年生が中心となり、弁当のメニュー作成や調理補助などの活動を行い、地域の食育や交流を促進する取組として、子ども食堂の質を高める工夫を続けている。

学校運営協議会熟議への参加

【議題】
「双葉がめざす
社会性とは？」
挙がったキーワード
・**判断力**　・**思いやりの心**
・**協調性**　・**ルールを守る**
教員や地域の方々が私たちに求めている力を探究活動を通して実践的に学ぶことができた。

活動後

【気づき・反省点】
・児童に教える生徒が誰なのか分かりにくかった。
→ 名札を着用することで、児童が安心して質問できる環境を整える必要がある。
・参加者が活動の流れや役割を理解できていないことがあった。
→ 活動開始前に、丁寧な説明や進行の見通しを伝えることで改善できる。

【大人の学び】
・イベント終了後、スタッフの方々から、「児童への声かけの仕方」や「難易度別に工作物を準備し、子どもの自主性を尊重する工夫」など、現場での実践的なアドバイスをいただき、非常に参考になった。

まとめ

今回の活動を通して、子どもたちの遊び場を充実させるために必要な要素や、企画づくりにおける課題が明確になった。特に、幅広い学年に対応する工夫や、事前準備の重要性を実感した。
今後は、アンケート結果を活用し、子どもたちがより楽しめる活動を企画するとともに、事前説明や役割分担を改善し、スムーズな運営を目指したい。
さらに、今回学んだ「子どもが自分で選択できる環境づくりの重要性」を取り入れ、主体性を尊重する取組へと発展させたいと考えている。
この経験をもとに、下関双葉高校が地域に貢献できる継続的で質の高い活動をめざし、今後も改善と工夫を重ねていきたい。

きらめく長門　水産業を元気に！ プロジェクト

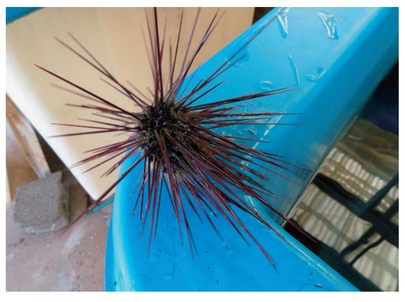
山口県立大津緑洋高等学校　水産校舎

1　長門市の水産業の背景

■全般的　長門市は漁業、養殖業、水産製品製造業等、トータル的に水産業が盛ん

■問題点　近年、地球温暖化やガンガゼウニ等の食害による漁場の荒廃や漁業就業者の減少により水産業の根幹である漁業が衰退

■強　み　長門市には山口県水産研究センターや山口県外海栽培漁業センター
そして、① 本校があり、水産業の課題解決につなげやすい環境



ガンガゼウニ

2　課　題

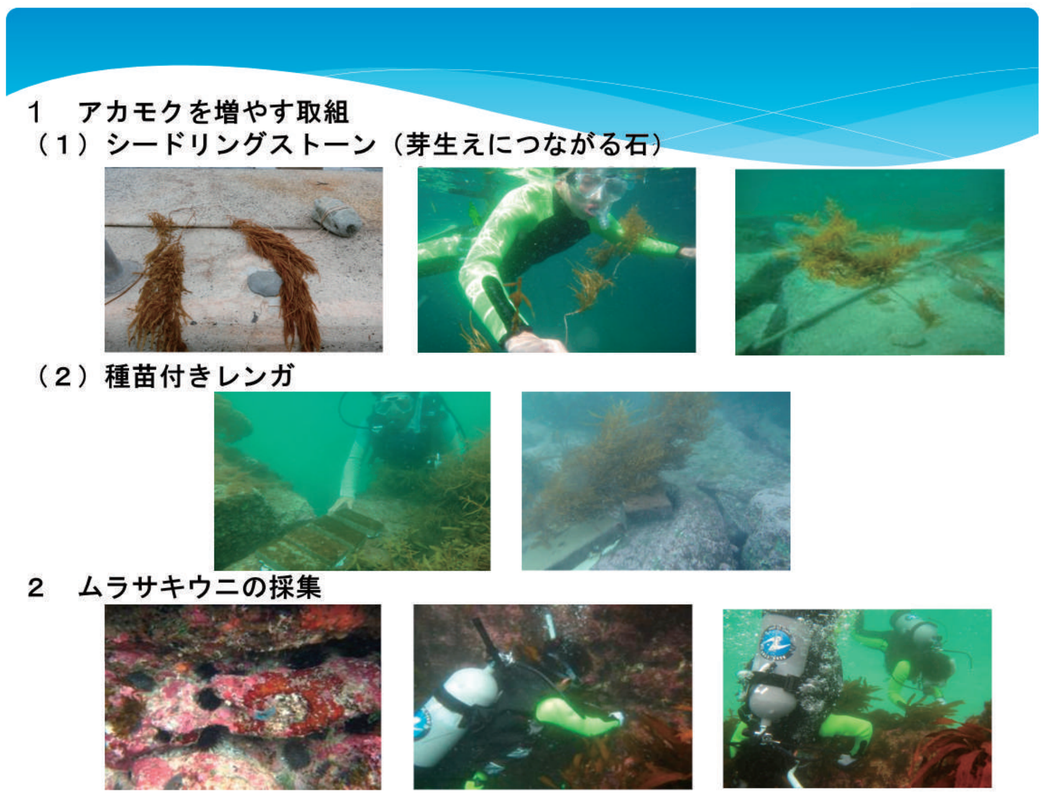
地球温暖化 → ガンガゼウニの爆発的増加 → 磯焼け → 漁場の荒廃

← ② 藻場造成　③ ウニの商品開発　④ 情報発信

3　プロジェクト活動

① 水産研究センターと水産製品製造業者との連携

② 藻場造成



③ ウニの商品開発

④ 情報発信

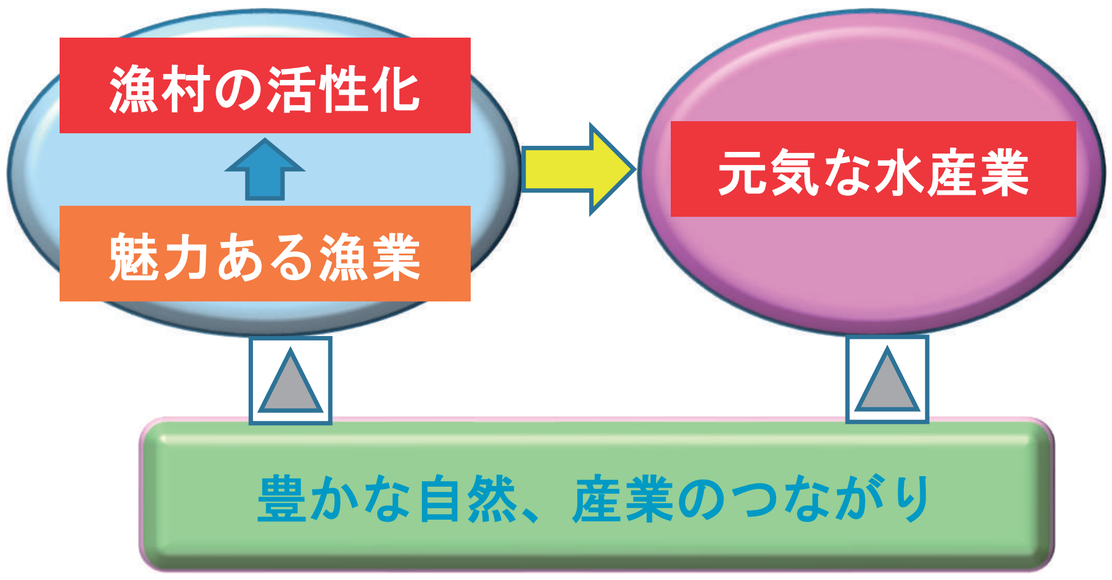
■開放講座　「海藻を増やして豊かな海づくり」
　□対象者　小学生とその保護者
　□内容　・海藻の役割　・海藻を増やす取組

■山口県漁村青壮年女性活動実績発表大会
　□対象者　県内漁業関係者、漁業就業者等

■長門市議会との意見交換
　□テーマ　長門市の水産業を盛んにし、長門市を水産業のまちとして広く発信する。

長門市役所HP

4　まとめ・今後の展望



島のプライドを未来へつなぐプロジェクト　～PRIDE OF THE ISLAND～

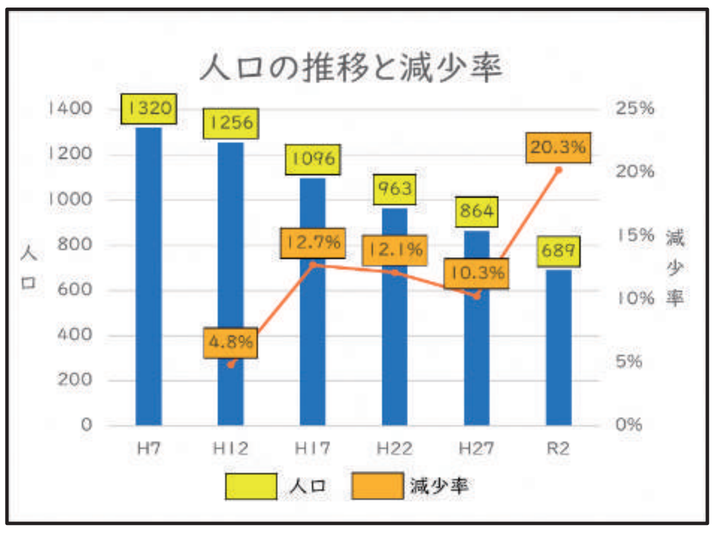
山口県立萩商工高等学校

１．研究テーマ

国境離島『見島』の文化を反映した商品開発や魅力の発信を通じて、見島に対して継続的に関心をもつ人を増やすとともに、島の活気を取り戻したい！

２．研究活動の動機

加速する人口減少と少子高齢化



総務省統計局が発表している過去の国勢調査のデータを集約してみると**人口減少率が増加していること**と、島民の半数以上が６５歳以上であるため、**限界集落であること**が判明。

島民が感じている課題

オンライン会議により、実際に島民からヒアリングを実施したところ、**「後継者が不足している」、「コロナ禍以前の祭事を復活させたいが高齢者が多く困難」**とかなり深刻な現状。

伝統文化の知名度の低さ

萩市では**「夏みかん」**や**「吉田松陰」**が町の象徴としてよく挙げられる。市内土産店10店舗をすべて調査した結果、**見島の伝統文化「鬼揚子」の商品は全体の2.6%であること**が判明。

３．活動内容

地元製菓店と新商品開発

鬼揚子をはじめ、見島の文化や魅力をアイシングクッキーにしました！包装デザインの制作や梱包も自分たちで行っています。

市内外での販売活動

今年度は萩市内だけではなく、山口市や山陽小野田市でも販売活動を実践することで、多くの人に見島の魅力を伝えることができました。

見島での調査・交流

片道70分間の高速船に乗船し、見島の方々へ販売活動や交流会を実施しました。今年度は宿泊することで、様々な活動に挑戦することができました。

次世代への継承活動

見島小中学校の全校児童８名と一緒に、私たちが考案したオリジナルの鬼揚子お守りの制作を行いました。

４．成果

発表大会で県１位　中国大会へ

県内外での発表を通じて、多くの方に見島の現状と魅力を発信することができた。

開発商品の常設販売化が決定

観光客が最も訪れる「萩・明倫学舎」の土産物店では、歴代開発商品を販売中。

行政・地域を巻き込んだ活動へ

地域文化継承への活動が広く認知・評価されることで、活動の輪が拡大中。

５．これからの展望

地域住民

ふるさとの魅力を再認識し、シビックプライドが醸成される

地域外

見島へ関心を抱いた人たちが、交流人口・関係人口・定住人口となる

島民

島外での取組に刺激され、活力が湧いてくる！